

「偏光感受型前眼部光干渉断層計による 偏光特性に基づく前眼部組織の緑内障性変化の検討」 についてのお知らせ

研究目的：

このたび「偏光感受型前眼部光干渉断層計による偏光特性に基づく前眼部組織の緑内障性変化の検討」という臨床研究を行うこととなりました。研究対象者は当院を受診した緑内障患者様もしくは比較対象となる健常者（眼疾患を有さない方、ただし白内障や軽度のドライアイを除く）です。対象となり得る場合には書面および口頭にて研究の説明を行わせていただき、ご了承が得られた方を本研究の対象に含みます。

研究の目的は、角膜、隅角部、強膜などの前眼部組織の質的な評価をおこない、これらの緑内障性変化を明らかにすること、および眼圧値、緑内障点眼薬、手術、緑内障病型などとの関連を明らかにすることです。緑内障の診断と治療では、視神経乳頭や網膜といった後眼部組織だけではなく、角膜、隅角部、強膜などの前眼部組織の評価も重要です。近年、前眼部光干渉断層計（OCT：Optical coherence tomography）によって、前眼部の構造物の形状を正確かつ詳細に観察し評価することが可能となり、それらは重要な診療情報のひとつとなっています。その一方で、緑内障眼の前眼部組織変化については未解明な点もまだ多いのが現状です。偏光感受型前眼部光干渉断層計（偏光OCT）は組織内部の質的性状の評価を可能とする新しい技術であり、偏光特性を評価することによって、コラーゲン線維の向きや密度といった組織内部の質的情報を、形態的情報と同時に取得することができる装置です。この装置をもちいて、健常眼と緑内障眼で前眼部の形状評価ならびに質的評価をおこなってその違いを調査することによって、緑内障患者さんの眼のより正確な評価ができるようになることを目指しています。それによって、点眼や手術といった治療方針を決定する際のより重要な手がかりを得ることができ、可能性が期待されます。

なお、この研究は筑波大学を主な研究施設とし、金沢大学および宮田眼科病院（宮崎県都城市）を含めた3施設で行います。筑波大学では検査によるデータ収集および他の施設から提供を受けたデータの解析を担当致します。また、筑波大学で収集したデータを金沢大学に提供して解析してもらうこともあります。

実施場所： 筑波大学附属病院眼科外来

集合場所： 筑波大学附属病院眼科外来

所要時間： 20 分程度

対象： 緑内障、正常眼（眼疾患を有さない、ただし白内障や軽度のドライアイを除く）

検査内容： 眼圧、偏光 OCT

- * 得られた情報は、個人が特定できないように処理致します。
- * 本研究に参加することで費用の負担が生じることはありません。

その他、不明な点がございましたら下記の連絡先まで気軽にご連絡ください。

研究担当者 上野 勇太（筑波大学）

〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

電話 029-853-3148